富士特別支援学校富士宮分校 令和6年度 第2回 学校運営協議会

【報告】

1 学校運営協議会委員(敬称略)

山元 薫(やまもと かおる) 静岡大学准教授

遠藤 久仁子(えんどう くにこ)富士宮市社会福祉協議会事務局次長

杉浦 博(すぎうら ひろし) 琴平区長

関澤 新一(せきざわ しんいち)株式会社 大一セラム 代表取締役

山野 良成(やまの よしなり) 静岡県立富士宮北高等学校長

大村 貴洋(おおむら たかひろ)令和6年度PTA会長

【教職員】

高田 宗享(たかだ むねたか) 校長 川上 健治(かわかみ けんじ) 教頭 山下 憲市(やました けんいち)高等部主事 大河原 明希子(おおかわら あきこ)教務主任 山田 裕亮(やまだ ゆうすけ)安全推進課長

2 次第

- (1) 開会 進行(教頭)
- (2) 校長あいさつ(髙田校長)
- (3) 前期学校の取組について
 - ・前期学校評価より(教頭)
 - ・生徒の学習の様子(部主事)
 - •授業参観
- (4) 議事 司会:山元会長
 - ~協 議~

「防災・防犯教育の取組状況」について 学校安全(点検)も含む

- (5) 校長あいさつ(髙田校長)
- (6) 閉会(教頭)

○校長あいさつ

前期学校評価(生徒の学習の様子)より委員の皆様からアドバイス等をいただき、後期の方向性について了承をいただきたい。(褒めていただけたら・・・) 本校の運営協議会でも防災の話題となった。本校は富士市の福祉避難所の指定を受けている。特別支援学校なので卒業生、在校生をターゲットにする福祉避難所。高齢者ではなく。富士・富士宮の行政担当者に来てもらい話をした。富士宮分校も富士、富士宮両市から通っている。



発災した場合にどうしていくと良いのか?また、富士宮北高校との関係性も大切になる。



☆前期学校の取組について ○前期学校評価より(教頭) 生徒の学習の様子(部主事)

前期学校評価の項目に沿って、分校職員の評価を説明。 生徒の1学期の学習行事や生徒会活動、外部の人材活用 等の様子を説明。

【委員の皆様より質疑また感想をいただく】

委員)

良い実践をしている。軽度知的障害の教育相談等に関わる中で、孤立が問題となってる。つながる、自分の言葉で説明できる、信頼できる大人、いろいろな人とのつながりが大事である。そうした中で、自己有用感の高まりが出る。安心できる環境の中で、学校の果たす役割は大きい。

進路選択の幅が広がり、定員割れの状態であるが、違う進路選択をした生徒がドロップアウトしていく様子もしばし聞く。富士宮分校等の特別支援学校を選択できる環境になると良い。いろいろなところから富士宮分校の良さを宣伝していけたら良い。現在、高等学校に特別支援学校の分校を作るという流れが全国的に広がってきている。高校とのインクルードを考えたときに、子どもたちへの価値づけをお互いにしていくことが大事である。

委員)

きめ細かな対応をしている。先輩がやっていたことを後輩が学んでいく。仲間同士で学ぶ。3 年間ですべてをやるのは大変。信頼して相談できる力を育めると良い。 委員)

宮分マーケット、昨年もとても立派な対応だった。自分たちでやってみるという経験が大切。理解しながらやっていくことで人との付き合いも上手になる。 よく伸びている。

委員)

分校の生徒は素晴らしい。礼儀、あいさつ等、非常によくできていると従業員からの感想も出ている。また、富士宮北高との取組も良い状態である。

職場実習受け入れのとき、障害者用の仕事は作らない。仕事は選ぶが。みんなと一緒になってやる。ポテンシャルがあがる。それを高校時代からやることが良い。富士宮北高の生徒との接し方を早いうちから知れるのはとても良い。

自主性・主体性は、我々でも難しいが、場所が変わるとなおさらできない。限られた時間の中で、いろいろなところでチャレンジ(失敗経験も含めて)し、どれだけの経験ができるかが重要である。

委員)

共生・共育、学びが多い。垣根を感じていたがやってみると垣根なくできる。良い関係ができている。北高の取組、今後の展望も含め、人の育ち、義務ではステージ制を経験してきているが、それを高校の教員は知らない。色濃くやっていきたい。未来への展望として、逆算していろいろなことができるように。 委員)

地域の方とのつながり、学校を出てからの地域とのつながりに良い影響。危機管理マニュアルの見直しなど、いろいろなものが分かっていく中で教員の取組が見られてうれしい。生徒が自分の意志でやりたいことを出していけたら。 学校より)

- ・コロナ禍で縦割の教育活動が薄れ、生徒からも復活したい思いや言葉が出ている。
- ・「やれた!」「やれるんだ!」を自信につなげること。行事の後の生徒同士の共感する時間を増やしていきたい。
- ・自立と社会参加をめざす中で、いろいろな経験の幅を広げていきたいが、新しいことが増えることで教員の負担にならないように進めていきたい。
- ・宮分マーケットのチラシは生徒が作成。
- ・保護者の方にあんぜん・安心な学校と思ってもらえることを大切にしたい。 キーワードは「つながる」
 - ※委員の皆様からたくさんの御意見や御感想を伺うことができました。概ね前期、順調に教育活動が進められているという判断をいただきました。いただいた意見も含め、後期また、次年度につなげていけるように周知していく。

~校内参観~

〇協 議 ※進行:山元会長

「防災・防犯教育の取組の状況」について



★学校から取組について★

- ・体験的な学習、記憶に残る学習に。自分事として考えられる授業に。
- ・避難訓練、年3回実施。①基本的な形 ②北高との合同(今年度は雨天で×) ③特別な形(昨年は教員が指示を出さない)
- ・9 月防災学習 避難後の生活をイメージした学習
- ・琴平区から水消火器を借りた学習も昨年度実施。
- ・専門家による防災講座。ふじの国ジュニア防災士の資格を今後学習に取り入れたい。
- ・防犯…警察所の谷さん 自画撮りトラブルについて 次年度不審者についても扱えたらと考え、相談中。
- ・安全点検、防災も含めて 教員が月に1回実施。生徒は生徒で実施。
- ・命を守る学習、学習そのものを楽しめるように模索。経験に重点を置くことで生徒の意識の変化も見られるようになってきた。

- ・防災マニュアル作成中、悩むこと多い。南海トラフ臨時情報が初めて出た。(学校に委ねている部分)
- ・職場実習中の事。企業はどんな防災対策等行っているのか。
- ・どのように地域の方や外部の方力をお借りしたら良いか。

委員)

防災マニュアルは出来上がっていない。BCPとかやっているところは別だが、、、昔ながらの訓練が中心。こんなときどうする、をその都度考える。実習のときは、危険の少ないところを選んでいる。発災の場合は生徒より、周りの職員に周知。避難経路は決まっている。発災箇所に応じてルートを考え行っている。サンコー防災に来てもらい訓練の実施。AEDや水消火器など。水消火器大事、火に直接かけないが鉄則だが訓練していても火を見るとできない。緊張感ある、本物を使った訓練ができたら。3年間に1回だけでも本物の火を使った訓練の経験ができたら。

学校)

新しいことをやりたいと考えている。

委員)

起震車は県に問い合わせしたらできるが人気がある。力のあるところもある・・・ 委員)

地域への発信。有事には災害ボランティアセンターの立ち上げをする。 サンコー防災とのつながり。富士宮市福祉避難所の取組が課題。協定を結んでいるところはあるが、うたっているところはないのが現状。

学校)

避難所に直接ボランティア希望の方が来たらどうしたらよいのか?

学校)

ボランティア保険に入ってもらった方が。センターで登録してもらってからの方が安心。

委員)

地域の人たちに調整してもらう。個人の場合は社協へいって調整をしてもらう必要がある。

委員)

被災後ケアできる人

学校)

学年で段階的な指導をしている避難所、自主防災につながる学習。受け身ではなく、 手伝いができる生徒に。ライフライン、マンホールトイレ、配給の分配などを実施。 実際に起きてしまったときに何かできる生徒に。生徒は楽しみながら学習している。 委員)

琴平区との合同の学習は?

委員)

日曜日が多くなかなか。中、高の参加が少ない。

住んでいる人でも消火器がどこにあるかわからない。火が出たとき、何本の消火器が集まるのか。確認をして最低でも 10 本集まるように。#119wifi 消防所から画像で教えてくれるものがある。

委員)

防火管理士を担当している。水消火器はできても本物だとパニック。期限切れのものを使用し本物の火で訓練したこともある。起震車、市役所に力をかりたこともある。地下のところで。合わせてスモークハウスも実施した。初期消火の大切さ。訓練の中で危機感を持つことを身に付けられると役に立つのでは。

委員)

学校の消火器はどんなもの?

学校)

粉末のもの

委員)

二酸化炭素のものもある。初期消火には良い。消す力もある。直接火にもかける。 充填式で繰り返し使える。屋内でやると周辺の汚れがすごく大変。屋外では良いが。 委員)

防災でのコラボは?

学校)

北高施設からの避難訓練のみ。同じ地区に住んでいる学生同士で顔合わせをする機会があれば嬉しい。過去に考えたこともあるが実施できず。避難した後に知っている人がいることで安心感につながるのでは。

委員)

敷地が広く、行動パターンとしてはできるが、焼津は年間 10 回。集団を変えて避難を。訓練は一時的、長期戦になった時が一番の問題。防災トイレ 10 基あるが、年間一回の訓練でできるのか。倉庫が倒壊してしまったらどうするのか。市の介入がどこまでで学校のやることとしては授業再開に向けた取組をするが、職員もどこまでできるのか。自治体が使う場所、学校が授業再開に向けて動く場所とできるのか。

委員)

琴平区 460 人 二宮区?500 人 三園平?500 人 他入れたら何人か北高に避難してくる人は膨大な数。

委員)

職員が十分な対応を取れるかどうかも。実際に何ができるか未知数。

委員)

いまだにできていないこと富士山だったら北高ではない。実際は下へ逃げる。住民の 意識も

委員)

想定も、終着点も難しい。

学校)

火山の噴火について第三次避難地域にしてされているが、現行のマニュアルでは 教職員が参集することになっている。これについても検討が必要な状況 委員)

小・中でどんなことをやってきているのか、聞いてみるのみ一つでは。地域で生きていく。大学生を見ていると小中の教育はすばらしい。

★安全点検について★

委員)

やり方も色々あるが何かご意見があれば・・・

委員)

会社でも月一巡視。毎回違う人間がチェックリストに沿って確認。その後会議で情報 共有し実践している。玄関先、雨の日の転倒などが多いのでそのあたりの点検を行な い、改善点についてリストアップしておく。見るだけだと意識薄くなる。こうしたらいいよ ね、という視点だと気づきも多い。

委員)

訓練の実施方法についても悩み。どこから火が上がるかにより避難方法が変わる、そのあたりを意識しながらやること。慣れが一番怖い。決められたルートだけだといざというとき難しい。

委員)

不審者対応について、不審者と認定する基準は?

学校)

教職員が声を掛けて判断する。必ず複数で対応する。今はそこしか判断基準がない。 委員)

北高はフリー

委員)

企業も出入りが多い。「挨拶」が返ってこなかったら、追う。を判断基準として。

委員)

静大も爆破予告などいろいろ・・・豪雨は大丈夫?

委員)

三園平の川が溢れる。先日の豪雨も。他の区とも相談し蓋ができたら・・・とも考えているが。

委員)

先週の雨は分厚い側溝の蓋も上がった

委員)

三島駅も水没。そのあたりも。

学校)

つながりを大事に。宮北の動きなども参考にしながら今後考えていきたい。

○校長あいさつ

とても素直で評価してもらえる生徒も多い。自分事として考え、知識を持っていることが大事。教えたことを吸収できる生徒達でもある。やった分だけ身につけて社会に出られることが望ましい。

○閉 会(教頭)

表現方法や言葉、ワード等で正確ではないところ、また発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。

御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。

次回のお知らせ

~第3回学校運営協議会~

日時 令和7年2月20日(木)午前9時から午後12時まで(予定)

内容 令和6年度の学校評価

学校関係者評価

令和7年度学校経営について